



# 東証1万円割れ

# 米欧の大幅安波及

## 4年10カ月ぶり 一時550円超下げ

七日午前の東京株式市場は、前日の米ニューヨーク株式市場でダウ工業株三十種平均の下げ幅が一時史上最大を記録、終

値で一万ドルを割ったのを月ぶりに一万円の大台を割り込んだ。前日比の下げ幅は一時五五〇円を超えた。米国発の金融危機に歯

止めがかからず、世界的な景気後退を招き、日本経済にも深刻な打撃が避けられないとの懸念が強まった。株価下落で企業

や消費者の心理が冷え込むのは必至。景気が一段と悪化し、さらに株価が下落する悪循環に陥る恐れも出てきた。

前日の米欧市場で株価が大幅下落し、世界的に株安が連鎖。外国為替市場で円高ドル安が進行したことも嫌気し、朝から自動車、電機など輸出関連株、銀行、不動産など内需関連株とも軒並み売り注文が相次いだ。

平均株価は一時、九九一六円二一銭まで下落。市場では「悪材料は尽きず、平均株価の下値のめどは見えない」（外資系証券）との悲観的な声も出ている。

1万円割れした日経平均株価を示す証券会社のボード  
=7日午前9時19分、東京・八重洲

